

# 電気の自給自足 はじめました！



## 我が家の場合…

ごみ・環境ビジョン 21 運営委員  
江川美穂子

ある日、ハタと気がついた  
「おうち発電、やるなら今しかない！」

3・11 をきっかけに、私は仲間と地域の再エネ普及活動に取り組んできたものの、自宅の屋根に太陽光パネルを設置しての自家発電については、屋根面積が少なく発電に不向きだからと何もしてきませんでした。

そして東電から再生エネルギー（再エネ）重視の新電力への電気の切り替えも、どこにするか迷いに迷い、結局そのままになっていたところ、ある日夫が「携帯の契約を変えたついでに電気も〇〇にしたよ」とノーテンキにあっさり、何の相談もなく携帯屋の電気に切り替えてきてしまいました。

「それはダメ、ほぼ東電と変わらないよ」と憤慨しつつ、これまで忙しさにかまけてあれこれ後回しにしてきてしまったことを猛反省。そして決めました！ これからの人生、何を優先するか。精神衛生上もっとも自分が喜ぶことを第一にしたい、と。つまり、可能な限りの電気の自給自足です。

自宅は築 25 年が過ぎた木造戸建て。先々考えると、築年数と私たち夫婦の年齢から…そう「今しかないかも！」。それにハタと気がついたのです。着飾ることもグルメにもあまり魅力を感じない私は、この先多少なりとも自前の電気で暮らせるならもう大満足。意味あるお金の使い方をするぞ、とばかり、なんとか夫を説得しました。

## 施工会社と見積もり

実は、再エネ普及に国や都や地元自治体が補助金をたっぷりつけていた 10 年数年前に、屋根を地元の業者に見てもらったことがありました。うちは四方向に傾斜している寄棟屋



根で南側の一番いい面に太陽熱温水器を乗せているので、残りの東西面では太陽光パネルをつけても効率が悪い、という診断で諦めた経緯があったのです。しかしそれから技術も普及も特段に進み、パネルは性能が上がってコストも安くなっています。

活動仲間のたまエンパワー(株)の紹介で、東村山市の施工会社(株)イーエスピーに屋根を見てもらったところ、東西の屋根の形に合わせて 3kW のパネルが乗ることがわかりました。それに 4.2kW の蓄電池もつけて諸々の経費を合計して 200 万円弱の見積もりです。これでいこう！と決めました。

## 発電開始で意識が変化！

9月7日に足場を取りつけ、その後、パネルや蓄電池の設置、モニター取り付けなどの工事が終わったのが9月25日でした。

自宅の屋根が発電所になって一番の変化は、台所の壁につけたモニターの効果で夫が省エネ派に変身し、不要な電気を消しだしたこと。そして晴れた日中に自前の電気で洗濯すると気分がいい…という風に、モニターで今現在の蓄電状況や余剰電力の売電状況が「見える化」したことによって、意識や行動が大きく変わってきました。

晴天の日の日中は作った電気を自家消費しながら蓄電し、余剰電気は売電、夕方か



り1円安く購入、余剰電力は25円で売電しています。1年後のデータが楽しみです。

## もっと増やしたい再生可能エネルギー

日本の温室効果ガスの排出量で一番大きなウエイトを占めるのが「発電および熱生産」だそうです。石炭、石油、天然ガスなどの化石燃料の使用を減らすことに本気で取り組まなければ、と気候変動行動サミットでのグレッタさんのスピーチに思いを新たにしました。脱プラスチック、脱焼却、再生可能エネルギーへの転換が求められています。

今年度、東京都環境局は「住宅用太陽光発電初期費用ゼロ促進事業」の募集を行っており初期費用なしで屋根に太陽光パネルを10年リースで設置し、10年後は譲渡され自分のものになるシステムで再エネを推進しようとしています。申請などは施工会社がやってくれますし、補助金が1kWあたり10万円と大きいので、検討してみるチャンスかもしれません。

らは蓄電した電気で深夜11時ぐらいまではまかなえます。これまでの自給率は最高で112%。雨の日は発電ゼロで全量買電ですが、曇りの日でも自給率は40～60%ほどあるので、南面の屋根の面積が多い家なら相当の自給率と売電量になるでしょう。

もっとも冷暖房が必要な季節だと電気使用量が増えるので、年間自給率は1年経過してみないとわかりませんが、晴れの日には太陽熱温水器と太陽光パネルのクリーンエネルギーで気分よく過ごせて最高です。

ちなみに、我が家は現在、新電力のエネックスと契約して、買電は1kWhあたり東電よ

## 自分史 笹小舟

### \*いの\*の編集後記 拡大版

11月初め、私の手元に1冊の「自分史」が届きました。表紙には草紅葉の尾瀬ヶ原の向こうに薄藍色の燧ヶ岳。送り主は、小平・環境の会の理事として長く活躍された高梨孝輔さんでした。

高梨さんはまた、ごみ・環境ビジョン21発足当初から、会員として、また一時はごみっと・SUNの校正者としてもごみかんを支えてくださった方です。ごみ問題のみならず環境問題全般に詳しく、文章がお上手で、私は小平・環境の会の会報に載る記事を楽しみにしていました。私とは山好き同士ということで、会えばどこへ登った、どこへ登りたい…と山の話になったものです。

高梨さんの「引き出し」はなんて多いのだろう、とは思っていましたが、「自分史～笹小舟」を読ませていただいて、多いどころか、どの引き出しもとんでもなく大きく深く、正確で詳細な記録とすごい記憶力の持ち主なのだとわかりました。

「笹小舟」に書かれているのは…敗戦当時の記憶、大手石油会社の労働組合で、民主化を目指して40年間にわたって続けた労使闘争、韓国の労働者との連帯・支援、そして映画『水からの速達』から始まる多摩地域や小平市のごみ問題に取り組む市民運動の立ち上げとその活動など。おまけは2003年から始まる登山の記録。

1931年生まれ、中2で敗戦を迎えた高梨さんが米寿の記念に作られた自分史は、そのまま貴重な戦後史になっています。親子ほど年の違う私ですら、いくつもの場面で高梨さんの思いに深く共感しながら読み進めることができました。また、山のスケッチ（多才！）がところどころに使われているのも嬉しいことでした。

高梨さんの『自分史～笹小舟』を読んでみたいという方は、ごみ・環境ビジョン21事務所までメールをお寄せください。残り部数はわずかということですので、先着順で！ [こちらへ](mailto:gomikan21@docomo.ne.jp)

